

# 音楽三田会

〒105 東京都港区西新橋1-10-8  
第2森ビル ミリオンコンサート内 音楽三田会事務局  
TEL 501-5638  
印刷 啓文堂

## 附和雷同ではない個人主義を守って

大橋 節夫(談)

(昭和二十二年法卒)

僕は大正十四年二月二日に京都で生まれました。小さい時から泣くのが嫌いで、終戦後アメリカ人と知り合いになって覚えた音楽の方が、湿っぽい日本の音楽よりも自分のフィリングに合ったので、ずっとこの道でやって来たわけです。まあ、中産階級の道楽の音楽とでもいいかもしれませんか……。

昭和六年、幼稚舎に入った時には多少情実もあったらしいのですが、以来大学を卒業するまで、一度も落第はしていません。「オッパチ」と



ハワイ州知事から表彰された大橋氏

いう名前はこの頃ついたものです。当時も今でいう「いじめ」はあって、幼稚舎ではよくいじめられました。で、普通部へ行ってから空手部に入ったんです。今の子はいじめから逃避しようとするけれど、そうしないで強くなればいいんですよ。僕の音楽開眼も同じ頃で、家の書生が物干台で『月光仙千金』とか『South of the Border』を歌ってくれたのが最初です。やがて『オーケストラの少女』という映画が来て、これによって音楽にのめり込んでいきました。普通部時代、NHKの「食後の音楽」でやっているハワイアンのスチールギターの音にしびれてしまい、やがてウクレレを買って来て『夕陽に赤い帆』『South of the Border』『峠の我家』などをスリーコードで弾いていました。ハワイの歌は知らなかったのですが……そ

のうちに他のコードも自分で探って覚え、コードチャートまで作ってしまいました。

普通部四年で予科へ進学、大学と同じ制服なので大っぴらに煙草が吸えたわけです。その頃はギターを弾いていて、「セヴン・スターズ」というバンドを作りました。ところがスチールギターの奴が『夕陽に赤い帆』を弾いていて、いつも八小節目でつかえるんですね。それで僕が代りに弾いたらうまくいったので、その日からスチールギターに転向しました。クラスメートは皆年上で、二十二、三歳のを十六歳の僕が頼で使っていたわけです。だんだん戦争が激しくなり、二年半繰上げで大学に入った頃には、スチールギターは退廃的であるといつて特高の槍玉に上げられ、それですます反抗的になって、常に一流になりたいと思いつけていました。そんな中で「音楽をやっている」、「慶応義塾の人間である」この二つは僕の強い支えになっていました。思うに音楽は天分であって、好きなのと上手なのは違う、いくら勉強してもセンスの無いのは駄目です。国賊扱いに反撥した結果海軍の予備学生に志願したのですが、実はここで三回命拾いしています。その三回目というのが特攻隊に選ばれて八月十五日夕刻に出撃せよ、という命令が出て待機していた

ら、その日の昼に戦争が終ってしまつたことです。

慶応に復学してから筧田敏夫君がバンドを作ろうといひ出し、皆斜陽族なのでいやいやながら「スターダスターズ」を作り、進駐軍のオーディションでAクラスを取ってGHQの専属バンドになりました。この名前は後で譲ってしまい、こちらは「ハニー・アイランドス」になって現在に至るわけです。当時東京だけでも千を越すハワイアン・バンドがあつて、本家のハワイより優勢になりました。外国の音楽で本国を凌ぐというのはハワイアンくらいのものでしょう。お蔭でこの三月には、灰田勝彦、バックキー白片の両氏と共にアリヨシハワイ州知事から表彰されることになっていきます。ハワイアンからジャズへ行った人も大勢いますよ。僕は陰湿な音楽は嫌いで、演歌調のものとかカラオケとかは戦争中の国民性に似ていて厭です。大衆は聞かせる音楽の良し悪しによって変つてしまふわけで、靖国神社問題を云云するよりも、日本人の国民性を変えた方が良くと思います。国際人になるには仲良くしなければいけないが、それには自我を張ってはいけません。悪い所は直さなくてははいけません。またどんな時でも明るさを失つてはならない、だから僕はたとえ失恋の歌を作っても、希望的な言葉を

付け加えるのを忘れません。音楽は大切にしたいと思えます。音楽は戦争中のもののように、ワンパターンであってもいけません。進駐軍の頃には選択の可能性があったのに、現在再びワンパターンになりつつある、ファッションでも同じですね。選択の可能性が無いというのは非民主的ですよ。「ペン」は剣よりも強し」

## 「音楽三田会」四年の歩み

寺西春雄

(昭和十九年経卒)

というけれど、下手に使えばナチズムのようにペンの暴力になってしまふもの。

今年(昭和六十一年)の慶応は大変よろしい——福沢先生のお札も出たことですし——塾の良い所は民主主義で、これは附和雷同ではない個人主義です。僕はこれを守って生きていこうと思います。(文責・姫野翠)

一九八三年二月十二日に「音楽三田会」の創立総会が開かれてから早くも四年を迎えようとしている。かつての「芸文三田会」が、もっと幅広い分野にまたがり、大家といわれる何人かの方が強いインタレストのもと加わっていたにもかかわらず、二年足らずで消滅してしまつたその轍はふみたくない、何とか会として永続をはかりつつ、より意義のある会にしていきたい——そのことだけを心がけてきた、といえる四年間であった。

そのため、運営についての日常的な検討や反省、行事その他についての企画立案などを目的とする月例会(本来世話人会の性格をもつものだが、会員その他の参加自由)を、発

足以来毎月欠かさずもち、世話人相互の意志の疎通、懇親の実をあげることをはかりながら、会のあり方について終始真剣な議論をかわして来た。一月、七月に開催される総会(定例懇親会の名で呼ばれる)も、来る一月二十四日の会で、すでに八回を数えることになり(この回数には創立総会が含まれていない)、この種の会としては、一応順調に歩みはじめたということができよう。最低年一回は発行したいと思っていた会報が、第二号を出してから二年半の空白を生じてしまったことは、世話人一同申訳なくおわびする他はないが、ここに久方ぶりに第三号をお届けすることができるとなつた。遅ればせながら第二号以後の歩みの

あとをここに報告しておきたい。

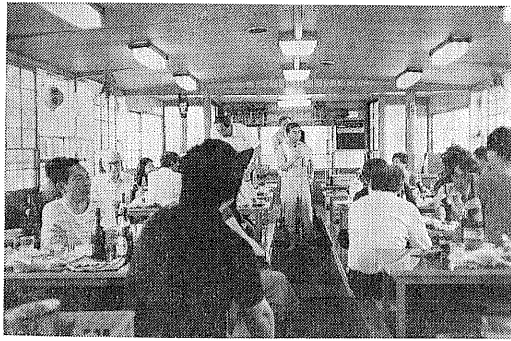
第二回定例懇親会(一九八四年一月二十一日)の前、前年十一月の月例会は、会員の松尾修君のCBSソニー、井上良勝君のエピック・ソニーの社長就任を祝う会としたところ、総会なみの四十名に及ぶ出席者を出してにぎわったが、第二回定例懇親会で米寿のお祝いを受けられた野村光一会長は一昨年九月で早くも半寿を超えられ、なおお元気でお過ごしのご様子、会全体で寿ぎたいと思う。この第二回の会合は、大雪のため当日になって、参加を取り消された方が多く(そのため赤字を計上してしまつた)、二十数名しか集まらなかつたが、その他の定例懇親会は毎回四十名前後の出席があり、会員相互の親睦の実をあげながら、さまざまの目的に活用する人たちもふえてきた。それもまた会として、同じ慶応義塾出身者の連帯の実をあげる場という性格もたせうる例、喜んでいいことだと思ふ。

第三回定例懇親会では(一九八四年七月十四日)、服部正君と芳村伊三蔵君の受勲、鈴木敬介君のサントリ音楽賞受賞を祝う会ということので、かなりのもりあがりが見られた。第四回(一九八五年一月二十六日)、格別のテーマを設定せず、自由な懇談の場として開かれたが、より活発でより積極的な会の活動を期

待する声も、そこで少なからずきえたことは、会員の中にこの会への関心が根強く生きていることを思わせ力強く感じた。第五回(一九八五年七月二十日)で、牧芳雄君の古稀を祝いあったのも楽しい集いの雰囲気をかきたてたが、別項にご紹介した通り、第六回(一九八六年二月八日)での大橋節夫君の戦中戦後の苦勞話は、出席者全員に笑いにみちたなごやかさのうちに深い感銘を与え、まことに印象的であつた。そして前回、第七回(一九八六年七月十二日)はぐっと趣向をかえて、隅田川屋形舟の船遊び、借りきつた船で東京湾周遊しながら会食というところだが、参加の諸氏に大好評、今後折にふれてこの種の新しい企画を実現させてほしいという声もしきりであつた。

「音楽三田会」という以上、さまざまのかたちのコンサートなどの開催にもふみきりたいし、その他のもよおしも企画してみたい、とも思うが、これまでは会としての定着をひたすら心がけてきたという次第、入金金だけという会そのものの経理も生やさしいものではないが(随時カンパは大歓迎します)、二百名をこえた会員諸兄姉ともども、慶応義塾の自由独立、清新創意の精神に生きる音楽家として、この会を生かしていきたいと心から願う次第である。

第七回定例懇親会から



屋形船上での懇親会

「音楽三田会」の第七回定例懇親会が、昨年七月十二日に開かれました。時にはちょっと趣向を凝らしてイキに船遊びなどはどうだろうという世話人の油井君の提案で、隅田川での屋形船上での懇親会が実現。浅草・吾妻橋のあみ清を夕刻の四時半に出た大型の屋形船は、もちろんこの日のためにしつらえられた貸切船。兩岸がコンクリートで護岸された風景というのはちょっと興醒めで、「花」にうたわれた風景は偲ぶべくもないが、河面を渡る風は何とも心地よいもの。品川沖のお台場海浜公園



妻たけなわ。左から山下，大野，いソノ，伊藤の各氏

を往復する、約三時間の船遊びを心ゆくまで満喫しました。この懇親会に出席した会員は約四十名。イキのいい江戸前のおぶらに舌鼓をうちながら酌みかわす酒は、飲み始めがまだ陽が高く明るかったということもあって、か、皆さん、とてもよく廻って、リレー自己紹介では爆笑に次ぐ爆笑。いつもの懇親会とはひと味違ったさらに楽しいものとなりました。もちろん船を下りてから二次会にくり出したことは言うまでもありません。(清水記)

収支計算報告書 (S60年4月～S61年3月)

昭和61年3月31日

|                |           |          |           |
|----------------|-----------|----------|-----------|
| 1. 収入の部        |           |          |           |
| 入会金            | 入会金納入13名分 |          | 65,000円   |
| 懇親会会費          | (7月20日)   |          | 325,000円  |
|                | (2月8日)    |          |           |
| 預金利息           | (8月19日)   | 1090円    | 2,068円    |
|                | (2月17日)   | 978円     |           |
| 合 計            |           |          | 392,068円  |
| 2. 支出の部        |           |          |           |
| 懇親会会場費         | (7月20日)   | 127,300円 | 278,550円  |
|                | (2月8日)    | 151,250円 |           |
| 印刷費 (含名簿)      | 62,300円)  |          | 96,500円   |
| 通信費 (含名簿発送費)   |           |          | 40,800円   |
| 合 計            |           |          | 計415,850円 |
| 3. 繰越金         |           |          |           |
| 前年度繰越          |           |          | 180,597円  |
| 本年度不足額         |           |          | 23,782円   |
| 次年度繰越          |           |          | 156,815円  |
| (繰越金は総て銀行預金のみ) |           |          |           |

入会金未納の方は、至急お払い込み下さいますよう、  
お願い申し上げます。

振込先 富士銀行新橋支店

口座名 音楽三田会

口座番号 普通一三〇―九八六一七四

# 掲示板

## 吉田雅夫君が叙勲

秋の叙勲に際し、フルーティストの吉田雅夫君（昭和音楽大学教授・日本フルート協会会長、昭和十三年法卒）が、勲三等旭日中綬章を授章されました。氏は昭和十七年に新交響楽団（現・N響）に入団、昭和三十一年まで名フルーティストとして活躍され、退団後は十九年にわたって東京芸術大学の教授を勤められるなど、フルート演奏活動を通じて日本の音楽文化の育成、向上に大きく寄与され、多くの優れた奏者を育てられました。

## 長谷川明弘君が4月にリサイタル

ジャズ・ドラマーとして活躍中の長谷川明弘君（昭和四十年法卒）が来る四月十五日、水道橋のバリオホールで「ファンキー・ジャズ」を中心としたリサイタルを開く。（音楽監督は同じく会員のいソノてルヲ君）

## 大橋節夫君が昨年九月に四十五周年のリサイタル

大橋節夫君が昨年九月十二日、「音楽生活四十五周年記念リサイタル」

を新宿厚生年金会館で開きました。

## 吉田雅信、伊藤正文、渡辺純子の三君がコンサート

音楽三田会の会員であるフルートの吉田雅信君（昭和六十一年文卒）、オーボエの伊藤正文君（昭和五十六年文卒）、ピアノの渡辺純子君（昭和四十五年中等部卒）の三人が、一月十五日、四時から市ヶ谷のルーテル市ヶ谷センターで「フルート・オーボエ・ピアノの夕べ」というコンサートを開きました。吉田君はエッセン国立音楽大学で、渡辺君はモーツァルテウム音楽院で、また伊藤君はヘルムート・ヴィンシャーマンに師事して研鑽を積んだ、いずれもこれからの活躍が大変期待される方たちです。

## 毎月一回会合しています

毎月第一月曜日夜七時から、帝国ホテル本館地下一階の東京三田倶楽部にて、月例の世話人打合せ会を行っています。音楽三田会会員は、どなたでも出席ご自由です。

## 会員の動静をお伝えします

会員のあらゆる動静をこの掲示板でお伝えいたします。会員が催す演奏会なり出版なり、宣伝なされたいことを遠慮なく、どしどしご投稿ください。

また音楽三田会会報では「会員の声」欄を設けております。自由な内容で四百字以内。ふるって投書してください。

## 総会についてのご意見を！

音楽三田会を息長く、盛大で楽しいものにしてゆくために、会のあり方、とくに定例懇親会でのアトラクションなどに、ご意見や、アイデアがありましたら、ぜひ世話人にお聞かせくださいますよう、お願いいたします。

## 「音楽三田会」会則

- 一、本会は「音楽三田会」と称し、会員相互の親睦と交流を目的とする。
  - 二、本会は、慶応義塾に学び、音楽を職業とするものをもって会員とする。
  - 三、定例懇親会は原則として年二回（一月、七月）開催する。
  - 四、本会は、会長一名、世話人若干名、監事二名、必要に応じて副会長数名を置くものとする。
  - 五、会員は入会の際に入会金（五〇〇〇円）を納入し、また会合の都度、出席者は参加費を支払うものとする。
- 付則 一、会報並びに会員の名簿を発行する。

## 音楽三田会役員

|       |        |
|-------|--------|
| 会長    | 野村光一   |
| 監事    | 村田武雄   |
| 世話人代表 | 油井正一   |
| 世話人   | 寺西春雄   |
|       | 安倍寧    |
|       | 石橋裕    |
|       | いソノてルヲ |
|       | 笈田敏夫   |
|       | 大野洋    |
|       | 大橋節夫   |
|       | 大山英治   |
|       | 岡弘道    |
|       | 小川光彦   |
|       | 小尾栄旭   |
|       | 観世栄夫   |
|       | 北村英治   |
|       | 喜早哲    |
|       | 黒川昌満   |
|       | 小林亜星   |
|       | 清水久嗣   |
|       | 高橋久勇   |
|       | 中野博詞   |
|       | 中野紘子   |
|       | 服部紘子   |
|       | 姫野進    |
|       | 峰岸壮一   |
|       | 三善清達   |
|       | 山下博譽   |

## 編集後記

音楽三田会会報第三号をお届けいたします。今回ご寄稿くださいました方々に心から御礼申し上げます。編集に関するご意見がございましたら、ぜひおっしゃってください。